

厚生常任委員会活動レポート

開催日：令和5年10月5日(木)

開催場所：1・2号委員会室

有限会社広栄様との懇談会

有限会社広栄様との懇談会には、代表取締役の臼井尚樹氏に出席していただきました。約51年という長きにわたりごみ収集作業を担い、より良い町民サービスへと応え続けていただいておりますが、今後のごみ問題を協議するにあたり、改めてごみ処理・回収方法の現状と課題、今後のごみ処理の展望について資料を基に説明していただきました。

特に、労働者不足と休日の確保が難しい現状では新規雇用は難しく、業務の存続が危ぶまれるとのことでした。

1. 2022年業務改善案提出

給与の確保・センター収集方式により給与ベースの改革、休日（週休2日制）の確保・業務の簡素化を行い、数年採用がない求人状況の改革を行い業務の継続を行いたい。

2. 2018年業務改善案について陳情

作業員の業務負担が増加し、求人を出しても採用がない状況から、根本的な作業内容の見直しとして、センター収集方式への移行を陳情した。

3. 戸別収集のメリット・デメリットについて

4. センター方式収集のメリット・デメリットについて

5. 労働者の環境について

6. 冬期収集について

ごみ箱の未除雪・除雪作業後雪庇回避・地吹雪時収集の危険・開始時間未除雪

7. 従事者の採用状況

6年間10名採用・8名退職・在職者2名

8. 収集路線の延長について

宅地化で収集距離が5年間で1,150mの延長

9. 各自治体の収集方式

〈人口5万人未満〉

ステーション方式：68%、一部戸別ステーション：26%、戸別：6%

10. ステップ乗車

道路交通法の観点より2015年をもって廃止

【主な質疑】

委員：収集コストが増加していると思いますが、委託金額で間に合っていますか？

業者：年間 68 日休日（月約 5.6 休）という現状の作業であれば赤字ではないですが、週休二日の体制を取ろうとすると赤字になっていくと思います。

委員：従業員は現状何名いるのでしょうか？

業者：21～22 人いましたが、現在は 18 名で、20 名は欲しい状況です。

委員：将来的に委託料の改善、人材確保のための賃金改善が必要ではないですか？

業者：会社としては行政に広えたいが、行政は人事異動により継続協議が難しい。委託料は上げずに応えてきたが、社会情勢の変化により、賃金の上がり方や人手不足も顕著に表れてきていて、従業員に長く勤めてもらうための改善も行いたいとなると、行政の期待に応えることができなくなっています。

委員：作業車両の購入はどのようなになっていますか？

業者：収集車両は更新時に見積りを提出し委託料の中で購入しています。修理費も委託料に含まれていますし、燃料費は当初の見積り時よりも 10 円程高くなっていて、車両 1 台 100 万円から 200 万円値段が上がっています。近年の物価高に伴い今年の見積書は値上げを検討しています。

委員：戸別収集からステーション化へとなれば経費削減効果はありますか？

業者：現在、1 車輛 3 人から 2 人へと作業人員軽減にはなりますが、それでは病休・有休対応ができません。しかし、実際には若干の経費削減となります。

委員：戸別収集は当町の素晴らしいところ。今は生ごみも一緒に回収しているが、生ごみの分別収集は可能でしょうか？

業者：収集車両の増台が必要で、収集回数も増えるという形になります。また、人員も費用もその分かかってくることになります。中標津の魅力でもある戸別収集は続けて行きたいという思いはあります。

委員：5 年前からステーション化の話を行政に提案していますが、手広えはありますか？

業者：理事者の理解は得られているのかなとは思いますが、やっとスタートラインに立った状況だと思っています。

委員：戸別収集での分別の状況はどうでしょうか？

業者：3 町で行っていますが、他町よりは分別が行われていると思います。多少のトラブルはありますが、余程ひどい時は警告シールで対応しています。

委員：ごみの量は増えていますか？

業者：今年度は前年の 98% で減っていますが、収集する世帯数は増えています。今年の夏は特にペットボトル、缶類のリサイクルが増加していて、ゴミの持ち込みも増えています。